

## 「好酸球性食道炎に対する臨床病理学的検討」に関する研究に関して

2012年1月から2018年10月までに、当院において、好酸球性食道炎と診断された患者さんの内視鏡を中心とした画像診断、病理所見、臨床像を検討することを当院の倫理委員会において承認を得ました。

好酸球性食道炎は食道粘膜に好酸球浸潤をきたし、嚥下困難や胸焼け、心窩部不快感などの症状をきたす疾患です。欧米を中心として、2000年前後から増加しつつある疾患で、本邦では稀な疾患とされていましたが、近年、本邦でも増加しつつあります。成因として食物アレルギーの関与が考えられていますが、予後や適切な治療法については不明な点が多いです。

このような背景のもと、本研究の目的は、好酸球性食道炎の臨床病理学的な検討を行い、拾い上げ診断に適した内視鏡画像を明らかにし、さらに、適切な治療方針を確立することです。

この研究は過去の検査結果をカルテから収集する後方視研究であり、患者さんの個人データが外部に漏れる心配はありません。研究結果は個人情報を省いた形で、学会報告ならびに学術論文として公表する予定です。本研究において、利益相反はありません。疑問のある方は、下記問い合わせ先に遠慮なくご相談ください。

公立みつぎ総合病院 内科

今村 かずみ

〒722-0393 広島県尾道市御調町市 124 番地

TEL: 0848-76-1111、FAX: 0848-76-1112

Email: m09009ki@jichi.ac.jp)